

- 1 会 議 名 議会基本条例推進協議会
- 2 日 時 令和 7 年 2 月 18 日（火）
午後 1 時 30 分から午後 2 時 47 分まで
- 3 場 所 第 2 ・ 第 3 委員会室
- 4 出席議員 議員 13 名
- 5 欠席議員 梅村均、大野慎治
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同主幹 田島勝己
- 7 会長あいさつ
- 8 協議事項

（1）議会サポーターについて

・議会サポーターとの意見交換会記録書をもとに反省及び考察

井上会長：記録書を予め配付した。気になること等あればお願いします。まず
1 月 15 日の参加者はサポーター 2 名、議員 7 名であったがいかがか。

（意見なし）

井上会長：1 月 18 日の参加者はサポーター 9 名、議員 10 名、事務局 1 名。
議会事務局の人数の記載の有無については、今までの記録書に合わせて統一をお願いします。記録書についていかがか。

水野議員：「12 月議会を振り返って」の 5 つ目だが、3 行目の「あのことが・・・」
の「・・・」部分に何も書いてないのはいかがか。もし再現ができないなら
削除することも含めて検討してはいかがか。

井上会長：「広報を見てあのことの議論だと思えた」という意味かと思う。
そのように文章化してほしいという意見だがいかがか。

梶谷議員：具体的には言われなかったが、「あのことの議論だと思えた」と
というようなことを言われた。

井上会長：「広報を見てより理解できた」に変えさせていただく。

梶谷議員：具体的な議員のことについては全て省いた。

片岡議員：裏面の「適宜行追加」は削除をお願いします。

井上会長：2 点の修正をお願いしたい。サポーターとの意見交換会を行った
が、書いてある内容については読んでいただき自分で関わりをもって進め
てほしい。

・500 名無作為時の若者枠をどのようにするのか。

井上会長：5 月に無作為抽出で年代別に募集の手紙を送るが、若者枠を増や
したいと昨年から課題があった。各会派や会派に属さない議員からの意見
はいかがか。

須藤議員：創政会は現状どおりでよい。

梶谷議員：分母が掴めていなかったがどれくらいか。

井上会長：前回の 500 人の内訳は 10 代から 20 代 86 人、30 代 76 人、40 代 86 人と聞いている。

鬼頭議員：若者枠の比率を一度増やしてみることはよいと思う。

井上会長：どの程度比率を増やすかは議会運営委員会で諮ってほしい。このままでいいという意見もあるが。

塚崎議員：実際に応募される方は何歳代が多いのか。

井上会長：再任の方もみえるので若者よりも年齢の高い人が多い。意見交換会への参加は若い方が多く感じる。今は年齢人口割でやっているが、増やす場合はどのように増やすかを考えないといけない。現状のままでまず進めてもよろしいか。

塚崎議員：若者枠をつくったほうがよいと思う。

関戸議員：事務局に質問だが、若者の比率を変えたり人数を固定で 100 人に変えたりすることはできるのか。

事務局：市民窓口課に抽出を依頼する際は各年代の人数を指定して依頼している。

日比野議員：今回は試験的に 100 人に増やしてはいかがか。

井上会長：10 代から 30 代を合わせると去年は 150 人へ送付している。

関戸議員：現状を見ると若者の募集人数を倍にしても 1 人増えるかどうかである。

井上会長：今年度は従来通りとし、来年度の課題としてはいかがか。

須藤議員：現状のデータを見ると 10 代 20 代の応募は今まで 1 人である。若者枠を増やすのであれば 10 代から 30 代を若者枠として増やしてはいかがか。

井上会長：500 人のうち 250 人を 10 代から 30 代の枠とし、残りを人口割にするという形はいかがか。

塚崎議員：新聞に若者枠についてプレスリリースしてはいかがか。

井上会長：10 代から 30 代への送付を 250 人とし、40 代以降は人口割で送付することを議会運営委員会に諮る。

事務局：確認だが、抽出の仕方は 18 歳から 30 歳、31 歳から 40 歳、41 歳から 50 歳という区分なので、40 歳までが若者枠として 250 人となるがよいのか。18 歳から 30 歳、31 歳から 40 歳の 2 つの区分となるが、その内訳も人口割とするか。

片岡議員：18 歳から 40 歳までをひとくくりで無作為抽出して 250 人とすることでいかがか。

井上会長：そのようにする。

(2) 議会講演会の反省及び考察について

井上会長：アンケート結果を見ると良かったという感想がほとんどである。

事務局：参加者数は 62 人であった。アンケートの集計数が参加者数より多いものは複数回答可能な項目である。

片岡議員：「今後取り上げてほしいテーマ」は来年度以降も講演会を続けていくうえで重要なものになると思うので、これは来年度に引き継いで欲しい。

(3) チーム会議の報告について

・ I C T チーム

関戸議員：今後のスケジュールとしては、7 月にタブレットが納品される予定である。その後、研修会等を行うので協力をお願いする。9 月定例会から可能な内容から導入していこうと思っている。4 月以降チーム内で今後のルールやスケジュール等を決定していくので、また改めて報告する。5 月以降も同じチームで進行する。予算化については紆余曲折あったため絶対に成功させたいので協力をお願いする。

井上会長：活用できるようにしていく。

水野議員：タブレット導入後、サポーターや傍聴者がタブレットに触る機会はあるのか。紙のままなのか。どのような予定か。

関戸議員：まだはっきり決まっていないが、今回学校タブレットの入れ替えがあるので、それをいくつか借りてサポーターに見ていただくというような案もある。今後サポーターにもタブレットを見ていただきペーパーレスを進めていく考えでやっているが、時間をいただきたい。

塚崎議員：一番大変な 9 月定例会からの導入なのか。

関戸議員：7 月から研修を行い、学習状況を見ながらできる限り導入していきたい。本会議の審議に支障が起きるような状況になってはいけないのでしっかりと精査して進める。

井上会長：研修計画をしっかりと立てていただき、状況を考えて進めていただく。

・ 災害対応チーム

塚崎議員：先日、11 回目のチーム会議を終え、岩倉市議会 B C P について 2 周目の校正をしている。事務局にも協力してもらい最終段階に入っている。防災士資格の取得についての情報共有が未着手なので、準備ができ次第共有する。

- ・市民参加チーム

井上会長：五条川小学校の令和6年度五条っ子フェスについてチラシを配付した。6年生の出し物で先日の市議会議員との交流の内容を紹介してもらえと思う。交流の際に出たアイデアをもとに実現していることもあるようだ。都合がつく方は是非参加していただきたい。チラシのQRコードから申込できる。

片岡議員：会長は当日参加されると思うので、6年生のプレゼンがどんなものだったか内容をまとめて共有していただきたい。

井上会長：市民参加チームは可能な限り参加してほしい。

（４）今後の予定について

井上会長：資料に基づき説明。議会報告会の司会者は日比野議員、記録係は木村議員、受付が大野議員と塚崎議員。説明は財務常任委員会委員長からしていただきたい。

谷平議員：これから決定する。

井上会長：4月の議会サポーターとの意見交換会について出席日の割り振りを決定したいがいかがか。

4月9日：井上（司会）、水野、榊谷、谷平、堀江

4月12日：片岡、鬼頭、日比野、須藤（司会）、伊藤、塚崎

不在の梅村議員、大野議員、木村議員は改めて予定を確認する。記録係の当番は梅村議員からとなるが、梅村議員の出席日が未定のため改めて決定する。

（５）その他

- ・市民から議会への意見について

関戸議員：資料に基づき説明。議員の一般質問に対しての意見については議会報告会内ではなく、終了後に個別対応していただく。

9 その他

- ・議会サポーターの公募について

事務局：サポーターの公募を行うかどうか、広報の都合があるため決定していただきたい。

井上会長：ここ数年公募していないがいかがか。コロナ禍に公募をやめ、昨年度も今年度も公募は行わなかった。

関戸議員：制度開始当初は人が集まるか分からなかったので公募を行った経

緯があるが、最近では 500 名の無作為抽出と再任を合わせると 20 人から 25 人ほどの人数が集まるので公募の必要はないと考える。

塚崎議員：公募すると事務的な負担がかかるのか。

関戸議員：もちろんそれなりの負担はかかる。また、公募しても集まらなかったこともあった。

塚崎議員：若者枠を増やすと 41 歳以上に手紙を送付する数が減るので公募したほうがよいのではないかと思います。

井上会長：2 つの意見が出た。広報に載せて公募することについていかがか。

梶谷議員：500 人には郵送で届くが、たまたま届かなかった人で議会サポーターについて知らない人もいる。5 月の議会だよりで市議会サポーターについて公募してはいかがか。

井上会長：議会だよりに掲載してもよいのではないかという意見も出た。公募するということでよいか。

須藤議員：公募するのはよいが議会サポーターの役割が議会運営についての意見募集であることをしっかり載せてほしい。現状、議会運営以外の意見も増えてしまっている。

井上会長：役割をしっかりと明記したうえで募集記事を掲載するということになるが事務局よいか。

事務局：確認だが、公募することにより無作為抽出が届いた方の特別感は失われる。過去の公募への応募状況は令和 4 年度が 0 人、令和 3 年度は 1 人、令和 2 年度はコロナ禍で公募なし、令和元年度が 1 人である。広報に掲載するとなると、事務的には 7 月早々に申込を取りまとめて案内をするが日程が非常にタイトである。7 月には参議院選挙も予定されている。サポーターへの説明会、現在のサポーターとの意見交換会も入ってくるため事務局の負担は大きい。

井上会長：5 月に出る議会だよりで期日を切って募集することを広報委員会で検討していただきたい。事務局よろしいか。

事務局：確認だが、そうすると 5 月に募集を行い、6 月に申込を取りまとめることとなる。6 月定例会の最中である。

井上会長：特別感は失われるが、5 月に議会だよりで公募を行う方向でやっていくということでよろしいか。

堀江議員：無作為抽出と公募を両方行うのか。

木村議員：岩倉市議会サポーターの運用に関する要綱の第 6 条 2 項で「議会サポーターは、年代別の無作為抽出又は公募により、市民のうちから議長が委嘱する。」とされている。初年度が 13 人の応募があったが、それ以降は 1 人か 0 人で、やらなかった年もある状況である。自分の意見としては、

公募しても募集がなかった年が3年、公募を行わなかった年が2年あり、公募のサポーターがいない状況であるので、一度やってみてもいいかなという思いはある。事務局が相当負担というなら考えないといけないが、何年かに一回、3年なり5年に一回公募することは考えないといけない。そうしないと送られた人以外にこの制度が知れ渡らない。議会運営に関する意見だということをきちんと謳って公募していくということにはいかがか。

井上会長：事務局が7月の委嘱式までにまとめるのが負担になるかもしれないが、できる限り協力していかないといけないと思う。

事務局：確認だが、無作為抽出は5月に抽出し、6月に募集を行う。公募を5月の議会だよりに掲載すると募集時期がずれる。

井上会長：ではやはり6月の市の広報に掲載していただくこととしていただきたい。

片岡議員：市の広報だとスペースが限られており、制度をしっかりと説明できないと思う。説明を優先するのか、募集時期を合わせることを優先するのか。自分は募集時期がずれてもしっかりと制度説明を掲載することを重視したい。

榊谷議員：去年もやらなかったので、市の広報にどれぐらいのスペースで掲載されたのかももう一度確認してみてもいい。次回に検討することと時間的に難しいか。

井上会長：広報委員会はあるが議会基本条例推進協議会はない。

水野議員：市の広報への掲載を議論していいと思うが、あまりに使い勝手が悪ければ広報委員会の裁量が働く議会だよりに掲載してもよいと思うが。

榊谷議員：事務局が懸念しているのは募集時期がずれることについてである。

水野議員：片岡議員の言うとおりで、募集時期がずれても構わないと考える。

木村議員：これまでのことを考えても、広報いわくらに議会のことを掲載するのは交渉が必要になると感じている。議会だよりであれば裁量が発揮できるのでその方がよいと考える。4月末に配布されるので5月末を締め切りとし、無作為抽出とは時期をずらして募集してはいかがか。

事務局：募集時期がずれることで締め切り誤りなど市民が混乱することを懸念している。須藤議員が懸念していた制度説明の件に関しては、過去、市の広報に掲載する場合でもしっかりと掲載していた。

木村議員：時期がずれることで無作為抽出の特別感が失われるのは確かに気になる。合わせるほうがいいと感じた。議会だよりはどうするか分からないが、市の広報にしっかりと掲載してもらい同じ時期に募集することにはいかがか。

片岡議員：限られたスペースなので、情報が足りなければQRコードで議会サポーターの説明のページへリンクするなど工夫するとよいと考える。

事務局：無作為と公募を同時に行ったとして、見る人によっては無作為抽出を郵送する必要があるのではという見方も出てくると思う。

木村議員：本来であれば無作為抽出で不足した場合に公募するというのが原則だが、時期の問題でできないため、公募は何年かに一回行うということで考えては。事務局の体制として無作為抽出の後で公募を行うことは困難か。

事務局：任期の開始を遅らせるということか。最近では無作為抽出での応募者が10名以上おり、応募は増えてきている。

塚崎議員：公募ができるのになぜ郵送するのかという意見もあるかもしれないが、公募を待っている人がいた場合、いつまで公募しないのかという意見が出る可能性もある。募集時期や事務負担の問題は来年に延期しても同じことなので、公募を行わないのであればサポーターの要綱を変更する必要があると思う。

事務局：無作為抽出と公募を隔年でやるという方法もあると思う。

井上会長：公募については、今回は見合わせて今後の検討課題とする。